

R06年度学校関係者評価（中学校）

学校評価(中学校)

教育目標（誠実な人間、良き社会人の育成）

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価	
		評価点	学校としての反省・改善策	評価点	
1	教育目標	A	全てのサレジオ生が教育目標に向かって成長できるよう、学習・生活・行事を計画した。中学入学前に生徒全員が創立者ヨハネ・ボスコの小伝を読み、「誠実・勤勉」のイメージを共有した。校長の毎週の朝礼や職員会議冒頭のドン・ボスコの予防教育法研修、各教員による宗教朝礼を基に理念を共有し、年間を通じて継続的な振り返りを行った。	A	自己評価に同意
2	宗教指導	A	聖書の教えを基盤としたカトリックミッション校の伝統を堅持しつつ、時代の変化に対応するサレジオスタイルの宗教行事・宗教教育を行った。サレジオ家族の全世界共通の目標であるストレンナ「ドン・ボスコの夢、わたしたちの夢 ～9歳の夢から200年～」を合言葉に、聖母祭や創立記念ミサ、クリスマス会、ドン・ボスコフェスティバルなどを厳粛かつ生き生きと実施できた。	A	自己評価に同意
3	教育課程	A	MYPカリキュラムを年度初めに全学年に配付し、年間の学習内容を学校・生徒・保護者間で共有できた。国語・数学・英語の3教科は標準より多く授業時数を設定し、内容の充実を図っている。英語は新たな取り組みとして今年度よりフェーズ制を導入し、習熟度に合わせた言語習得学習に取り組んでいる。小論文や数学のベース別授業、高度なプログラミング学習など、特色豊かな授業を展開している。MYPコーディネーターを中心に、年2回の保護者向けワークショップの開催、ニュースレターの毎月の配信など、教育課程や内容が保護者にも浸透するよう心がけている。	A	自己評価に同意
4	評価・認定	B	教員個々の匙加減ではなく、IBの客観的規準に基づく評価を行った。各ユニットの評価規準と課題を先行提示し、児童生徒は要点を整理して学習できた。単元テストや実力テストのみならず、総括課題をはじめとした種々の評価材をもとに、多面的・総合的に評価を行った。しかし、総括課題の評価には膨大な時間を要する。DX時代にふさわしい、より効率的で正確な評価方法を模索したい。また、Managebacのスピーディーな更新なども、向上心をもって取り組みたい。	B	MYPの評価とテストの点数が必ずしも比例していない気がします。教員の主観が反映されすぎたり、システムの問題なのか、とても良い取り組みと考えますのでアップデートを期待しています。また先日先生方との面談を終え、先生方の活き活きとした表情や情熱的なお話をお聞かせ頂き学校への感謝の気持ちを深めました、ありがとうございます。
5	教科指導	A	MYP全教科で、年間50時間以上の探究型学習を実施できた。探究の問いと単元のゴールが示されたプランナーによって授業が構造化され、inputとoutputのバランスの取れた、活発で深い学びのために学校一丸となって研鑽を積んでいる。一人一台のデジタル端末も、学習状況の見える化および学びと評価の蓄積、他者との意見交流を助けている。他方、基礎基本の徹底も意識し、AI搭載の学習アプリを活用しながら、小テストや単元テストを継続実施した。今後も、探究と基礎基本の習熟を両輪に、バランスの取れた教科指導を継続したい。	A	自己評価に同意
6	授業研修	A	総括課題に向けた適切な形成的課題の設定やその評価方法、基礎基本の定着と探究課題への取り組みのバランスなど、より適切な生徒へのかかわりを探究するため、年3回、学園全体で研究授業を行った。他ステージの教員の授業実践も参考にしながら、自分自身の実践と照らし合わせ、プランナーや総括課題の設定を振り返り、改善へと促す貴重な機会となっている。サレジオの教員としての心構えは、創立記念日に吉田神父様よりドン・ボスコの教育法についてご指導頂いた。ドン・ボスコのように夢を語り、一人ひとりの魂に響く教育を追究していきたい。	A	自己評価に同意
7	学級経営	A	担任は職員室ではなく、教室で過ごすアシステンツァ(=ともにいる教育)を心がけることで、クラスの変化や課題に気づき、迅速に対応した。担任は単に指示するだけではなく、生徒の考えや自主性を尊重する学級経営を行い、学年部で密に連携した。年2回、教育相談・進路面談を行い、生徒の現状と未来のビジョンを保護者と共有できた。また授業や行事、保護者会で生徒の姿を直接ご覧頂き、その奮闘努力をお伝えすることができた。	A	自己評価に同意
8	生活指導	A	担任・主任・生活指導部・教頭・校長が常に連携し、チームサレジオで対応した。生活指導年間目標にしたがい、具体的な目標を毎月共有した。それでも思春期的課題が露わとなり、様々に問題が発生したが、粘り強く指導と対話を続けた結果、多くが改善と成長に向かった。問題発生時に保護者にご来校頂き、情報共有、対応方法を協議し、協力を得られたのは実に有り難かった。	A	自己評価に同意
9	進路指導	A	カレッジステージのコース選択のために、アドミッションポリシーや学びの特長を整理し、ミドル全体で共有した。特に8年教員は、生徒が「自分らしい学び方」を見つけ、志望理由書を何度も書いて主体的にコース選択に臨めるよう指導した。7月に一泊二日でキャンパスツアーを実施した。上智大学などをただ見学するだけでなく、本校の先輩学生に案内してもらい、進路講話も聴くことができた。その上で、改めてカレッジステージ・コース長より、コース説明を受けた。大変分かりやすく、保護者にも好評だった。徹底的に自分の将来と向き合い、「現時点での自分なりの納得解」を携え、1月からの校長面談に臨んだ。	A	自己評価に同意

R06年度学校関係者評価（中学校）

10	安全管理	生徒の健康・安全を守るために、通学・防犯・保健の適切な指導や施設管理が行われている。	A	警備員の配置やICカードによる門扉の管理で、不審者の侵入を予防している。「防災カード」をwebアンケートにて作成し、緊急連絡先や下校グループ、アレルギー、一時避難所などの情報を一元管理した。危険な暑さに危機感を覚え、暑さ指数計を設置して基準値を超えた日の外遊びは見送り、熱中症予防を心掛けた。健康管理に関しては、P・M・C各保健室で連携し、日々の傷病対応や養護教諭不在時のカバー体制が安定してきた。適宜下校指導を行い、安心安全な下校に努めた。	A	自己評価に同意
11	校務分掌	教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対し、責任を持って取り組んでいる。	A	全教員が与えられた校務分掌を責任感をもって果たしている。各部長がリーダーシップを発揮し、分掌間の連携も円滑である。IB教育研究所のリーダーシップにより、MYP理解と研究、他ステージとの連携が促進された。負担感の大きかったICT業務には複数名を配置し、頻発するタブレットの破損や機器トラブル、不適切な使用にチームで対応できた。生活指導主任を単独で配置することで、教頭が兼務した昨年度より細やかに目が行き届いた。	A	自己評価に同意
12	行事運営	校内外で行われる学校行事は教育目標に照らして十分にその役割を果たしている。	A	寝食を共にしてサレジオについて学び、互いの仲を深める新入生研修を年度初めに実施した。上記の8年生のキャンパスツアーも、夏季休暇中の職業体験とあわせてコース選択やキャリアデザインの一助となった。8年生の多忙さを考慮して、3泊4日の長崎研修旅行は9年生で実施したが、新幹線での移動時間の長さが課題となった。年度末の8年生のドミニカカレッジホームステイプログラムも貴重な海外体験の機会になっている。	A	自己評価に同意
13	管理運営	学校組織の管理運営系統が明確で、役割分担や協力体制が整っている。	A	ダブル教頭制により、より細やかに生徒に目配りしつつ、新しい時代の新しい教育を目指した。宗教部を土台に、教務、研究、生活指導など、各主任が学園指針のもとリーダーシップを発揮した。学年部や担任からは小さなことでも密に報告・連絡・相談があり、問題が生じても相談しながら連携し、解決することができた。	A	自己評価に同意
14	施設・設備	本校の施設、設備は生徒が生活する上で快適な環境として管理・整備されている。	A	各教室にサーキュレーターや加湿器を配備し、換気に気を配った。ラーニングcommonsやコミュニケーションスペース、学習室がある4号館を、授業や放課後などに利用できるのは有り難い。屋上・外壁防水工事により雨漏りは完全に解消したが、4・5・6号館が外壁塗装を実施したので、2号館が古びて見える感否めない。	A	自己評価に同意
15	課外活動	放課後の部活動や生徒会活動を通じ、教師が常に生徒と「共にいる」よう努めている。	A	放課後にはサレジオメソッドを実施し、self-studyやBasic English、DMM英会話、各部活動など、生徒それぞれの必要に応じた活動を行っている。生徒会役員ミーティングもこの時間を活用し、学校をよりよくするための提案や企画、運営につなげることができた。その一方で、教員の働き方改革を考慮し、一人の教員に負担が偏らないよう人事配置を工夫した。	A	自己評価に同意
全般、総合評価			A	「サレジオに入りたい！」と強く希望し、狭き門を突破して外部から入学してくる生徒と、サレジオ教育を6年間受けてきた内進生が、互いのよさを認め合い、切磋琢磨する学校になってきた。時代を見据えた学校改革に、多くの方々が共感して下さった証しと思う。誇りと緊張感を失わず、期待に応えられる学校として日々奮闘努力したい。MYP認定校として3年目、授業スタイルや学び方、評価方法が徐々に定着してきた中、急成長する生成AIとどのように向き合うべきかという課題が浮上しつつある。コロナ禍を経て、生徒のICT活用が当たり前になった。確かにICT活用は個別最適化教育に資するが、「人と関わること」「深く考えること」が阻害される危険性がある。「誠実・勤勉」をスクールモットーとする静岡サレジオとして、生徒も教員も時代の利器を適切に利用する良識を育てねばならない。IBや海外姉妹校との交流で世界基準を意識しつつも、足元に咲く花に目を凝らし、驚き、感謝と賛美を忘れない生徒を育てる。それがサレジオ教育の重要な使命である。	A	自己評価に同意

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

今後に向けての考え方(学校関係者評価を受けて)

本校の教育活動に対して概ね良好な評価をいただきましたこと、大変ありがとうございます。
 「MYPの評価とテストの点数が必ずしも比例していない気がします」とのコメントですが、報告会でも申し上げた通り、基本的には「MYP評価＝総括的評価課題の評価」ですので、往々にしてテストの点数とは比例しない形となります。テストが苦手な生徒がMYPではよい成績ということがあります。その逆も然りで、テストが得意な生徒がMYPでも高成績とは限りません。今後も多様な評価軸をもち、生徒一人ひとりがかもつよさを伸ばしていけたらと思います。
 昨年度、全般評価で「プライマリーに比べ、ミドルは子供達の様子を見られる機会が少ないように感じるの少し残念です」とのコメントを頂戴しました。これを受け、「もっとミドルのよさを見ていただく」と話し合い、今年度は参観参観はもちろんのこと、インターネット安全教室、聖母祭、運動会、MYP勉強会、クリスマス会、スピーチコンテスト、CP発表会(全員・代表者)などをご覧いただきました。保護者の皆様に頻繁にご来校いただき、生徒の生き生きした姿を目の当たりにして、よりいっそうサレジオのことを好きになっていただけたら幸いです。また、私たちが教育活動で足りない部分にや疑問に感じる点に関しまして、引き続き率直にご指摘いただけますようお願い申し上げます。
 この後の年度末そして年度初めに、姉妹校ドミニカカレッジと盛んな交流が行われます。ドン・ボスコの名の下に両校がつながり、親交を深めること一番の意義は、「ともに生きる喜びを学ぶこと」だと思っています。大変なことがあっても、それでも心の中に喜びがある人は幸せです。共に喜び、幸せを分かち合える生徒の育成に、引き続き邁進して参りたいと思います。